

二〇一七年一月二五日  
印刷  
發行



第 100 卷 第 1 号 史学・地理学・考古学

# 特集 海

---

史学研究会

京都大学大学院文学研究科内

## 特集 海

特集「海」に寄せて……………吉井秀夫（1）

### 論 説

一八世紀フランスにおける  
沿岸貿易船の船長たち……………君塚弘恭（3）

一九世紀中葉フランス植民地拡大における  
海港都市マルセイユ商人の役割……………杉本宗子（40）

近世の鯨と幕藩領主……………東幸代（74）  
——丹後伊根浦の捕鯨を手がかりとして——

清末西江の「海賊」：「緝捕権」問題と  
貿易・航運……………村上衛（106）

第二次台湾海峡危機とアメリカ合衆国の  
台湾政策……………吹戸真実（141）  
——一九五〇年代後半における台湾政策の変容をもたらした、  
歴史的ダイナミズムの解明に向けて——

「海のご墳」研究の意義、限界、展望……………魚津知克（178）

2016年度史学研究大会・公開シンポジウムの記録

パネル討論の記録

2016年度史学研究会総会・大会の記録

の後、四月一五日（土）一三時より京大文学部新館第三講義室を会場として行う来年度の例会のテーマを『史林』第一〇〇巻刊行に因んで「学びのネットワーク」とすること、『史林』特集号（第一〇一卷第一号）を第一〇〇巻刊行記念号として、一六年度大会の報告者にも執筆を依頼していることが報告された。

編集（吉井秀夫常務理事）からは、『史林』刊行状況の説明の後、原稿が不足気味であり、ひきつづき積極的な投稿をお願いしたいという趣旨の依頼があった。

会計（高嶋航常務理事）からは、平成二七年度決算および平成二八年度一般会計予算について、両年度の相違点なども含めて説明があった。

広報（金澤周作常務理事）からは、例会・大会のためのポスター作成と、ホームページの管理について、報告があった。

これらの報告は、すべて原案通り承認された。

大会は、「歴史研究の過去・現在・未来——『史林』第一〇〇巻刊行によせて」との共通論題を掲げ、左記のように四名の講師による報告およびそれに引き続くパネル

討論という形式で行われた。

基調講演：『史林』と京大東洋史学

礪波 護氏

報告：「回顧と提言」

紀平英作氏

金田章裕氏

上原真人氏

パネル討論

パネリスト：礪波 護氏、紀平英作氏、

金田章裕氏、上原真人氏

討論司会：永井 和氏

全体の司会は、小野沢透常務理事がつとめ、礪波氏の紹介は中砂明德氏が行った。

パネル討論終了後、上島享氏の閉会の辞をもつて大会は終了した。来場者の中には学部生や大学院生も多く、来場者総数は一六〇名以上にのぼった。『史林』刊行一〇〇周年を祝うに相応しい、文字どおりの盛会となったことは、大いなる喜びである。

基調報告と報告を行った四名の講師には、当日の報告内容に関連する論考の執筆を依頼しており、これらの論考は『史林』第一〇一卷第一号（二〇一八年一月刊行予定）

に掲載する予定なので、会員各位には期待して待たたい。また、パネル討論の内容は本号に掲載されているので、参照されたい。

（文責 小野沢 透）

## 史学研究会会則

（二〇一〇年二月二日改正）

第一条 本会は史学研究会と称する。

第二条 本会の事務所を京都大学大学院文学研究科内に置く。

第三条 本会は広く歴史に関心を持つ者が集まり、史学・地理学・考古学に関する研究を行うことを目的とする。

第四条 本会の事業は次の通りである。

1. 総会・大会・例会等の会合

2. 会誌『史林』等の発行

第五条 本会に次の役員を置く。

理事長一名、理事一五名以上三五名以内（内常務理事四名）、監事二名、評議員四〇名以上六〇名以内、委員若干名

第六条 役員は理事会及び評議員会によって選出され、総会の承認を受けるものとする。理事長は本会を代表し、会務を統括し、会員総会、理事会及び評議員会を

招集する。理事は理事会を構成し、会務を処理する。とくに常務理事は、庶務・編集・会計・広報の各事務を担当する。

監事は会計経理を監査する。

第七条 委員は理事長より囑託され、編集・庶務の実務を分掌する。

第八条 役員の任期は、委員（任期一年）を除き、二年とする。但し、再任をさまたげない。

第九条 本会は第三条に掲げた目的に賛同する者をもって会員とする。会員は次の種類とする。

1. 正会員 2. 学生会員

第十条 会員は会誌『史林』の配布を受け、かつこれに投稿し、また総会に参加することができ。

第十一条 会員は、退会届を事務局に提出し、任意に退会することができる。また、会員が次の各号のいずれかに該当する場合には、退会したものとみなす。

(1) 本人が死亡し、または会員である団体が消滅した時

(2) 会費を三年間納入しない時

第十二条 会員は、所定の会費一年分を前納するものとする。会費の納入を二年分

怠った時、雑誌の送付を停止される。さらに一年間会費の納入を行わない場合、会員の資格を喪失する。

第十三条 会員が既に納入した会費は返還しない。ただし一年分を超えて前納している場合には、一年分を超える部分を返還する。

第十四条 毎年秋季に大会を開き、また適宜例会を開く。会場等はその度にこれを定める。

第十五条 毎年秋季において総会を開き、会務の報告を行ない、承認を受ける。

第十六条 本会の経費は会費、事業収入及び寄付金を以て支弁する。会費は誌代を以てこれにあてる。

第十七条 本会の会計年度は四月に始まり、翌年三月に終わる。

附則 本会則の変更は、会員総会の決議によるものとする。

但し会務執行に必要な細則及び物価変動に基づく会費金額の変更は理事会がこれを行う。

### 『史林』投稿規定

◇資格 本会会員であること。

◇投稿受付原稿の種類、長さ

論説 1 段組 54 字×19 行の体裁で、三二〇〇〇字以内

研究ノート 2 段組 29 字×20 行の体裁で、二〇〇〇字以内

研究動向 2 段組 29 字×20 行の体裁で、二〇〇〇字以内

史料紹介 2 段組 29 字×20 行の体裁で、三二〇〇〇字以内

書評・論文評 2 段組、八〇〇〇字以内

紹介 3 段組、一二〇〇字程度

◇原稿の種類を明示すること。

◇いずれにおいても、本文や注だけでなく謝辞や図表・翻刻を含めて、それぞれの紙幅に収めること。

◇注は各章末に入れること。

◇「欧文タイトル」を添付すること。

◇論説には「要約」(四〇〇字以内)を添付のこと。「要約」は上記の紙幅制限の対象外とする。

◇論説および研究ノートの投稿者は、掲載が決定した時点で、「欧文要約」(六〇〇〜八〇〇語程度)を提出すること。なお、英文要約に限り、翻訳による作成依頼にも応じるが、経費は投稿者負担とする。

◇注は各章末に入れること。

◇投稿に際しては、(1)プリントアウト一部もしくはPDFファイル、および(2)電子データを送付する。電子データに関する詳細は下記「補足」の〈電子データ作成要領〉を参照。電子データを準備できない場合は、あらかじめ事務局まで連絡すること。

◇図版を用いる場合は、下記「補足」の〈図版作成要領〉に従って作成、添付すること。

注意・編集委員会において、印刷技術上、図版の修正や特殊活字の作成を要すると判断し、これを業者に委託した場合には、その経費の一部、数千円〜数万円を負担していただきます。あらかじめご了解下さい。

送り先・史林編集委員会

〒六六六 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科内 史学研究会

### 『史林』投稿規定「補足」

〈電子データ添付要領〉

・電子データは、フロッピーディスク、CD-R、CD-RW、USBフラッシュメモリーなどのメディアに保存して郵送する

ことを原則とする。郵送に不便があるなどの事由で、メールによる投稿を希望する場合は、あらかじめ事務局に問い合わせること。

・本文の電子データは、マイクロソフト・ワード、一太郎、テキストファイルのいずれかの形式で保存し、保存形式(OSおよび使用ソフト)を明示すること。

・図版に電子データを使用する場合には、300dpi以上の解像度とする。ソフト(illustratorやPhotoshopなど)やバージョンについて事前に照会・確認すること。

〈図版作成要領〉

・本文原稿中に図版の割付箇所を注記すること。

・仕上寸法は、最大で170mm×110mm(キャプション込み)とすること。

・図および写真は、仕上寸法の2倍(面積4倍)程度で作成し、希望縮尺率を明記すること。

・図は、トレーシングペーパーや製図用ケント紙などに製図用インキで明瞭に描くこと。その際、線の太さを一定に保つた

め、製図用ペンを使用することが望ましい。

・図中の文字は写真植字を用いて印刷するので、鉛筆書きするか、上にトレーシングペーパーを重ね該当箇所に文字のみを書き入れること。また、インスタントレタリングやワープロ文字を原図に貼り付ける場合は、仕上段階の鮮明度を配慮すること。

・写真は、原版が十分に鮮明でコントラストが明瞭なものを選ぶこと。なお、巻頭にアート紙で印刷することを希望する場合は、割付・仕上等は編集委員会が調整する。その経費は投稿者負担とする。

・表は、仕上を配慮して、文字数や表現法を工夫すること。原表の掲載を希望する場合は、その旨を明記し、図版に準じた体裁を整えること。

注意・図表に不備がある場合は、投稿者に修正を依頼するか、編集委員会が修正します(経費は投稿者負担となります)。

〈論文等の電子的公開について〉

・著者が論文等を任意のサービサーに、機関レポジトリ等を使って公表する場合は、

以下の条件を満たすことを要する。この条件を満たす限りにおいて、本会への承諾はいは不要とする。

- イ) 『史林』の版面をそのままPDFファイルなどにして公開する場合は、掲載誌刊行後、二年を経過していること。  
ロ) 論文の出版を明らかにすること。  
ハ) 営利目的でないこと。

(二〇一四年一月改定)

## 編集後記

一〇〇巻一号をお届けします。今特集号のテーマである「海」について、政治や経済、文化の側面から取り組んだ論説が六本そろいました。通読することで、異なる地域や時代における人間社会と海との多様な関係を知ることができると思います。歴史学の対象としての海の魅力が凝縮され、読者の知的好奇心を刺激する、特集号らしい一冊ですので、お楽しみください。

そして今年、『史林』は節目となる一〇〇巻を迎えました。これも会員の皆様の研究成果を発表する場として認められてきた結果だと思えます。昨年の大会では、一〇

〇巻の刊行を記念するシンポジウムが開かれ、本誌の来し方を振り返り、今後のあり方が議論されました。報告の内容については、来年刊行の一〇一巻一号に掲載予定ですが、本号にはそで行われたパネル討論の記録が掲載されていますので、こちらもぜひご覧ください。

そこで言及があるように、本誌の意義の一つは、「学際誌」という点にあると、個人的には考えています。次期学習指導要領では、日本史Aと世界史Aを統合した「歴史総合」が、新たに必修科目として設置され、同じく新設の「地理総合」は別科目であるものの必修とされるなど、教育の場にも学際的な潮流が及んでいます。「歴史総合」が主として近代以降を念頭におき、前近代との間に無用な溝を作り出すのではないか、などの懸念は尽きませんが、こうした潮流の中で、「学際誌」たる本誌の存在は、一定の影響をもつのではないのでしょうか。とりわけ本号のような特集号は、共通のテーマについて異なる専門分野の論説が寄せられ、研究者のみならず、教育に携わる人々にも、何らかの刺激を与える力を有しているはずです。その力を發揮するた

めにも、異分野の論説の単なる羅列にとどまらず、多分野の研究の交流を促進する場を提供することが、本誌の責務の一つとして、より重要になってくると思われれます。次の一〇〇年に向け、各専門分野における最新の研究成果の発表の場であるとともに、学際的な交流の場として、本誌が様々な専門分野をつなぐ「海」となるよう、一編集委員として、微力ながらお手伝いできればと思います。(岸本廣大)

## ◆史学研究会ホームページ・アドレス

<http://www.shigakukenkuyukai.jp/index.html>

二〇一七年一月二五日印刷 定価二、〇〇〇円  
二〇一七年一月三一日発行

史林 第一〇〇巻第一号(通算第五二号)

京都市東区吉田本町京都大学大学院文学部研究科内

電話 075-753-1278

発行人 史学研究会

振替京部 〇一〇七〇二二五五番  
理事長 井谷 鋼造

印刷所

京都市南区上島町藤田二九  
中村印刷株式会社

## 史学研究会例会のお知らせ

下記のとおり、史学研究会例会を開催いたします。多数ご来会くださいますよう、ご案内申し上げます。

日時 二〇一七年四月一五日(土) 午後一時～六時一五分

場所 京都大学文学部 新館第三講義室

テーマ 「学びのネットワーク」

### プログラム

開会挨拶 史学研究会理事長 井谷鋼造

趣旨説明

#### 第一部(午後一時一五分～三時四〇分)

西村昌洋 「ムーサに仕える輩たち」のネットワーク——後期帝政ローマの文人と帝国」

磯貝真澄 「ロシア・ムスリムによるイスラームの学識の継承」

高木博志 「富岡鉄斎が顕彰する国史」

#### 第二部(午後四時～五時四〇分)

水野真彦 「知識学習、ネットワーク、近接性——経済地理学の視点から」

喜多千草 「社会的責任を考えるコンピュータ専門家協会(Computer Professionals for Social Responsibility)の成立と発展」

質疑および討論(午後五時四〇分～六時一〇分)

閉会の挨拶 京都大学文学研究科歴史文化学系代表 小山 哲

※終了後、懇親会を予定しております。奮ってご参加ください。(午後六時三十分～午後八時、参加費一般一〇〇〇円・学生五〇〇円、予約不要)

史学研究会

Special Issue  
SEA

YOSHI Hideo, Foreword ..... ( 1 )

**Articles :**

KIMIZUKA Hiroyasu, Shipmasters of the *Cabotage* in  
Eighteenth-century France ..... ( 3 )

SUGIMOTO Tokiko, The Role of the Merchants of Marseilles in  
Colonial Expansion of the Mid-19<sup>th</sup> Century ..... ( 40 )

AZUMA Sachiyo, On Whales and Domainal Lords in Early  
Modern Times, Employing the Whaling of Ine in Tango  
as a Key to Interpretation ..... ( 74 )

MURAKAMI Ei, "Pirates" on the West River during  
the Late Qing Period: Trade, Shipping and the Dispute over  
"The Right of Patrol" ..... (106)

FUKITO Masami, The Second Taiwan Strait Crisis and U.S.  
Taiwan Policy: Towards an Understanding of the Historic  
Dynamism that Brought about the Alteration of Taiwan Policy  
in the Latter Half of the 1950s ..... (141)

UOZU Tomokatsu, The Significance, Limitations and Prospects  
of Research on Tumuli and Graves by the Sea ..... (178)



# THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

---

Vol. C No. 1

January 2017

---

Special Issue

SEA

---

*Published*

*by*

THE SHIGAKU KENKYUKAI

*(The Society of Historical Research)*

Kyoto University, Kyoto, Japan

定価 2,000円(税込)

ISSN 0386-9369